中国二年	組	番	氏　名
補充			

登場人物の言動の意味を考え、内容の理解に役立てよう。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

吾輩（わがはい）は人間と同居して彼等（かれら）を観察すればするほど、彼等はわがままなものだと断言せざるを得ないようになった。自分の勝手に人を逆さにしたり、頭へ袋をかぶせたり、ほうり出したり、かまどの中へ押し込んだりする。しかも吾輩の方で、少しでも手出しをしようものなら家族総掛かりで追い回す。吾輩の尊敬する筋向かいの白君（しろくん）（注1）などは逢う度毎に人間ほど不人情なものはないと言っておられる。白君には先日玉のような子猫（こねこ）が四匹産まれたのである。ところがそこの家の書生が三日目にそいつを裏の池へ持って行って四匹すべて捨てて来たそうだ。白君は涙を流してその一部始終を話した上、どうしても我等（われら）猫族が親子の愛をまっとうして美しい家族的生活をするには人間と戦ってこれを滅ぼさねばならぬといわれた。また隣の三毛君（みけくん）（注2）などは人間が所有者という事を解していないといって大いに腹を立てている。元来我々同族間ではめざしの頭でもぼらのへそでも一番先に見付けたものがこれを食う権利があるものとなっている。もし相手がこの規約を守らなければ腕力に訴えてよいくらいのものだ。それなのに彼等人間はちっともこの観念がないと見えて我等が見付けたご馳走（ちそう）は必ず彼等によって奪われるのである。白君は軍人の家におり三毛君は弁護士の主人を持っている。吾輩は教師の家に住んでいるだけ、こんな事に関すると両君よりもむしろ（注3）楽天である。ただその日その日がどうにかこうにか送られればよい。いくら人間だって、そういつまでも栄える事もあるまい。まあ気を永く猫の時代を待つがよかろう。

注1　白猫。注2　三毛猫。注3　自分の生活に不満をもたずにいること

（夏目漱石（なつめそうせき）「吾輩は猫である」より。一部加筆・省略等がある。）

問一　**吾輩**、**白君**、**三毛君**は、人間にどのようなことをされたのですか。本文中からそれぞれ探して、簡潔に書きなさい。

吾輩

白君

三毛猫

問二　吾輩は、人間をどのようなものだと考えていますか。それについて述べた次のア～ウについて、適当なものには○を、適当でないものには×を書き入れなさい。

ア　人間を自分勝手な生き物だと考えている

イ　人間を滅ぼさなければならないと考えている

ウ　人間は食いしん坊だと考えている

ア	イ	ウ

問三　吾輩は、人間とは今後どのように付き合っていこうと考えていますか。四十字程度で書きなさい。

40